

研究フォーラム「カントと 21 世紀の平和論」趣意書

2018 年 11 月、日本カント協会に、篤志家（宮地カヅ様）から遺産の一部のご寄付がありました。世界平和の研究に役立ててもらいたいというご遺志によるものでした。日本カント協会委員会では、この高邁なご遺志に沿ってご寄付を役立てる方途を検討し、その一つとして、世界平和の哲学を主題とする研究集会「カントと 21 世紀の平和論」を、イマヌエル・カントの生誕 300 年記念行事の一環として、実施することを決定しました。

カントの平和の哲学と聞いてまず思い起こされるのは『永遠平和のために』でしょう。当研究集会では、もちろん、この作品を中心とするカントの平和論そのものも研究の対象としますが、それに限定せず、カント哲学の視座から、広い意味で世界平和に関わる事柄（人権、人の尊厳、民主主義、差別、植民地主義、グローバル化、地球環境など）をも取り上げます。また、哲学のみならず平和研究に関わる他の学術分野の研究者、研究者に限らず世界平和に関わる仕事に携わる人々にも、参加を要請する予定です。研究集会で発表された研究成果は、一冊の書物にまとめて公刊し、広く世間に伝える予定です。

ご寄付の活かし方を検討している間にも、ロシアによるウクライナへの侵攻をはじめとして、世界平和を揺るがす出来事が立て続けに起こっています。世界平和を実現するためには、まず国際社会と市民社会が具体的な行動を起こさなければならないことは、言うまでもありません。その行動を動機づけ推進するために、世界平和に関する基礎的な学術研究は貢献しうるし、貢献すべきです。ご遺志もそれに期待するものと受け止められます。

なお、ご遺志に報いる事業はこの研究集会とその成果出版に留まるものではありません。それと前後して、世界平和に関する学びの場を提供する計画があることを申し添えます。